

新潟県

平成3年

公民館月報

10月
第464号

第32回 関ブロ公研集会印象記



秋
つばめ

飛び交ふ街の

物産展

(八王寺 本宮哲郎)

燕製品青空即売会

毎年10月第一日曜日

市内物流センター一円

で燕製品のPRと製品の
即売を行う。

飛燕太鼓や各種イベ

ントも併せて開催さ

れ、近隣から数万人の

人出で賑わう。

(写真提供 燕市中央公民館)

関ブロ公研集会を終えて

誠実な対応に好感

県公連の課題も浮き彫りに

第32回関東甲信越静公民館研究集会は、別表のアンケート集計の結果によれば、受け入れや応接などサービシに関する対応はきわめて好評で、全体の成果も高く評価できたようである。しかし、果たして手放して喜べるような結果を得たのか、残された課題は何かを探ぐってみた。

誠実な対応が評価

受け入れや応接等サービシに関する対応はきわめて好評であった。むしろ外交辞令が少なくないこととして割引いてもなお高い評価を得ていたと考えて



よからう。

これは、本県人の共通の財産である誠実さが認められたものであろう。また、事に臨んで協力一致して当る公民館関係者の連帯意識が結実したのもとして素直に喜んでいいことであろうと思う。関係者のご尽力に衷心から感謝する次第である。とりわけ、会場地湯沢町当局ならびに湯沢町公民館の関係者のお力添えと共に旅館関係者の協力を忘れるわけにはいかない。

もう一つの側面、つまり、研究集会の内容そのものに関しては、研究中心主義の旗印を色あせたものにしていなかったか、と案じたのであったが、別記「集會印象記」によればこれまたおおむね好評のようであった。分科会、全体発表の内容を生かして今後の公民館活動の資料

にしてほしいものである。

浮き彫りになった課題

好評を博した今回の公研集会ではあるが手放して喜べないいくつかの課題が浮き彫りになっ

第32回関東甲信越静公民館研究集會 アンケート集計結果 県外24票 県内13票 計37票

- ◆会場設営 受入態勢 ホテルの対応等 サービスに関する感想
 - 細心の心配りに感謝、こころ暖まる応接に感謝(多数票)
 - 全体会場が立派
 - 受付の係の親切に感謝
 - ホテル従業員のマナー・サービス申し分なし(多数票)
 - 会場移動へのマイクバスの送迎に感謝

- 公民館(分科会場)からホテルへのバスを出しては良かった。
- 10畳5人は窮屈
- 懇親会の「酒一本」はいかがなものか。酒と固定せず流動的に、必要なら会費の増額も結構。
- オープニングの「公民館の歌」、あれだけでは気の毒。グループのレパートリーに応じて、あと数曲歌ってもらいたかった。
- ロビーでの喫煙にはへき易。

- ◆研究集会の持ちかた、分科会研究討議の掘下げ等についての感想
 - 運営の発表者がよく勉強しているのに驚いた。
 - 討議が本論からずれてばかりだが、司会者は大変ご苦勞様。
 - 分科会速報が翌朝間に合ったのは賞賛に値する。
 - 速報に感謝、分科会の運営が素晴らしかった。

- 分科会助言者は、学者実践家等から。
- 意見の発表は、関連のないことを(自分の言いたいことだけを)言い合うだけでは課題の掘下げにならない。
- 234名の分科会、教室風の並びかたにも一興ありと感じた。
- 「職員」分科会の特設が必要、来年は是非。
- 館長3期6年、年手当て6000円には驚き。
- 基調提案が長すぎたのでは。
- 基調提案に関する掘下げが不足だった。…分科会参加者の協力不足によるもの。
- 地域公民館のことをもっと考えてほしい。(類似公民館のことか)
- 大都市、中小町村の現状格差を配慮した分科会設営が望まれる。
- 研究集会は「積み上げ方式」だそうだが、各回ごとの内容を明確にして欲しかった。〈初めて参加したものにはよく分からない〉
- “大会宣言”をどうして採用しないのか。

たことも事実である。このうち、関ブロ公連の研究推進のあり方に関する部分は関ブロ公連に委ねるとして(別掲)本県公連に関わることを指摘したい。

それは、端的に言うって県公連の組織の充実化にある。かつて、本県公連には、その運営に関して、現行の理事会・評議員会の他に、館長部会・主事部会の専門部会が設置され、県下公民館の実態の中から、問題を吸収し、課題解決を見えるための活動が組織

的に展開されていた。さらには、研修(個別研修の他に県公民館大会も含めて)の内容についても検討するなど、現場の要望を反映した事業が展開されたものである。それが、今日のような体制になって久しい。このたびの関ブロ公研集会をプロモートしてみて、最大の弱点はここにあったと思われるのである。ここに、館長部会・主事部会の復活によって、本県公連の充実と活性化を図る必要があることを討えたいのである。

関プロ公連に期待する。

公研集会のあり方の工夫を

「研究中心主義を標ぼうする があるが、方法論に画餅の感がな
関プロ公研集会のあり方につい くもない。唯一の『大会資料』
て再検討の必要があるように思 の事前配布方式も、その意図と
われる。以下その三本柱につい 必要性活用に関し風化しつつ
ての紹介と問題点を指摘する。 あるように思えた。

一、研究の積み上げ方式
県レベルの課題や成果を、関 公民館の多種多様さからその
プロへ全国集会へと積み上げる 必要性は十分に理解できるもの
縦の方式と、関プロのみで年次 の、主管都県の条件によって、
を追うものと二様の積み上げが また、経費的な面からも、一律

にできない憾がある。
三、親睦と交流を深める
参加者が一堂に会し、親睦と
交流を深めることは、連帯感の
醸成の視点からも意義あること
ではある。しかし、宿舎を温泉
地にすることの功罪は軽々に論
ぜられないものの、研究中心主
義を貫くための必要条件かどう
か、吟味する時期に来ていよう。

ともあれ、ここに一巡した集
会を節目に、新たな研究会を
工夫してほしいものである。

辛口

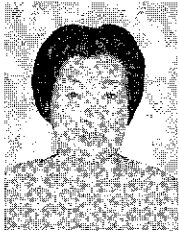
新潟市で した。年々作品の応募
は市民の文 数も増え、文芸愛好者
芸振興をは の輪の広がりを感じま
かるため、 す。うれしいことです。
文芸誌を発 私が応募したのは、
行していま 五号からでした。運よ
す。「文芸に 感しながら、これから
いがた」と も公民館通いを続けて
き、その喜びが「よし、 いくつもりです。
文章の勉強をしてみよ 振り返ってみると、

豊かな人生を

生きるために

浅野 マサ子

今年十号を刊行しま



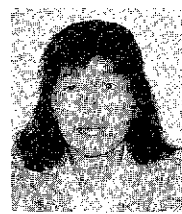
「う」という発奮につな 一冊の地域文芸誌が私
がりました。 と公民館を結びつけ、
今、私は三つの文章 生きがいと、一緒に学
サークルに所属してい ぶ仲間を見付けてくれ
ます。月のうち四日は たのです。
公民館にでかけ、仲間 そして、それは私ば
の皆さんとお会いしま かりでなく、公民館に
す。老若男女、さまざま 集う皆さんの思いと同

(新潟市在住)

関東甲信越静

公民館研究会印象記

宝池 定子



公民館か らのお誘い
で、去る九
月五・六日
と、初秋の
山あい
を通り、湯沢の会場まで約
二時間、「関東甲信越静公民
館研究会」に参加させて
いただきました。

他の分科会の内容についてはは
翌朝配られた分科会速報を、今
ゆっくり目を通してるところ
です。実践発表のお二人も、手
間ひまかけて地域の人達と交流
し合いながら、けなげに努
力されている点は大いに参
考になりました。最後の新
大、藤田先生の講演、「腸の
不思議」はスライドを使っ
て解りやすく、腸の超能力
を御説明され、越後特産の
枝豆が糖尿の妙薬である事
も初めて知りました。

ひろば

人生八十年の時代です
が、寝たきり老人六十万人
とか、努力なくして安穩な
老後は望めません。生涯を
通して、様々な出合いの中
から学習を継続し、見る、聞
く、伝えつつ運審のお役に
立ちたいものです。

有意義な二日間、萩の花の咲
き乱れる山路を、心豊かに帰途
に着きました。

(上越市立公民館 運営審議会委員)

十七の分科会に分散して
の学習会では、市の公民館
の方達と御一緒に、第九分
科会「人権学習と公民館」
へ仲間入りさせてもらいま
した。上越市の同和地区の実態、
行政の取り組み等の説明の後、
他県の方達の実態と感想等を聞
いてみました。が、いずれも同和
問題の認識が深く、私などは自
由、平等の観念は解しながらも、
実生活の面では差別している自
分にさえ気付かず過す日常であ
り、寝たふりをしてはおれない
事を痛感いたしました。

県民性のにじみ出た集会

実行委員 関 吉彦



いろいろな研究会・大会等に参加してみると、その主催者の県民性が自然とにじみ出ているような気がする。

このような研究会は、単にお祭りのな行事になってはならない。問題意識や事業に対する悩みをかかえて、遠方から参加して下さる公民館関係職員に、その内容が、それぞれの地域の課題解決に示唆を与え、意識変革を促す企画であってほしいと考

公研集会印象記

わからない、真の研究集
公研集会だったが、果
々 県内の関係者から
もらった。



平成二年 十一月、事務局誕生。
湯沢、長岡、新発田、新潟合せて九名、いかに安く、効率よく成し遂げるかが使命で

事務局奮戦記

全体進行担当 武 樋 洸

まず、実践発表がよかった。公民館の運営者と利用者との立場は違っても、両発表とも長年、しこしこ実践しつづけた成果を発表して、参加者の感動を誘った。武樋係長の司会もみごとなもので、各都県の交流に大いに役立った。

運営面では、湯沢駅に降りたところから全体会場まで細かな配慮が行き届いていた。また、宿舎での対応、主会場への連絡



どもも満員の分科会場

あった。
主題や分科会の検討に約半年、やっぱりな広告集めも各地で順調に目標額を達成、さて現地を視察して大問題が出て来た。会場の設営が並大抵でないことが分った。一方資料作成班で

等の円滑さは、湯沢町の方々の力が大きかった。

速報も早朝にきれいに出来上がり、事務局の敏腕を示した。

この研究会が、全県公民館職員の一一致協力の力により大成功を取めたことを関係者として、深く感謝している。

(県教育庁生涯学習推進課 副参事)

「お疲れさまでした」

総合案内担当 大 関 重 雄



「駅まで、何分ですか。バスは出ますか。」
「タクシーは食べないですか。」
「美味しい昼食を食べる所は……」等々と対応



翌朝早くの速報配布

「お疲れ様でした。バスは、駅までです。御自由に御乗車下さい。」の案内に、参加者の皆さんそれぞれが笑顔で「御苦労様でした。」「お疲れ様でした。」の慰労の言葉。ホット、胸を一撫で無事大会の終了であった。
大会の詳細が決定され、事務局体制のスタートが六月六日、作業スケジュール等の資料を拝見し、安堵と不安の中、全体実行委員会一回を含めた僅か四回の打合せ会で、無事に大会を終了することができました。
地元湯沢町さんはじめ、関※

も頭をかかえていた。締め切りが過ぎてもさっぱり申し込みがこないものである。これがはっきりしないことには分科会場も宿も弁当も名簿作りも全てがストップしてしまおう。しかも遅れているのは全部県内市町村。そのうちウグイス嬢が見つからない、コーラス隊も見つからない、コーラス隊をどうする、お茶のサーヴィスをどうする、

いやすべった、ころんだのときまざままあって、さて当日、来るは来るは公民館関係者とはとても思えないような我まゝな苦情や注文の数々「欠席者の参加費返して」「宿代戻して」「お茶はまだか」……。(ウーン・コノヤロー)だが今は楽しい想い出。湯沢の皆さんありがとう。
(新潟県関屋地区公民館)

第32回 関ブロ

「お祭り騒ぎ」に終
会になることを願った
たしてその結果は……
その印象を吐露して

福祉をめぐる多彩な活動に学ぶ

第10分科会 羽 鳥 昌 治



第10分科会では、大会の基調提案をふまえて、「社会福祉と公民館」をテーマに三時間におたる熱心な研究討議が行われた。出席者は役六十人、参加範囲は前回の五県から一部八県に広がり、公運審の委員も多く、特に四割近い女性の参加者には、改めて「時流の変化」を感じた。実践発表は長野県山ノ内町。要旨は、公民館婦人講座から学

牟田佛三氏は「生涯学習即ボランティア」を呼びかけているが、社教法にも「福祉の増進に寄与する」その明文がある。公民館人は、この原点を忘れることなく更に基礎的条件の整備を図り、21世紀への変化に対

問題山積の管理運営部会

第15分科会 高 橋 清 逸

根づき、築きあげてきた公民館運営の具体的な実践内容は、参会者の心を大きく捉え、協議の視点をより明確にした。部会の参加者は六八名で、公民館運営の鍵を握っている経験豊かな館長や、主事だけに協議の内容も豊かで密度の濃い意見交換がなされた。参会者の半数を越える発言があったのも、司会者の手腕もあったが、今日、公民館で抱えている問題の重要性や深刻さが如実に現れているものと思わざるを得ない。

「健康づくり」への情熱が見えてくる

第8分科会 菊 地 三 男



「これが公民館にかかわる者の研究集会である」という印象を運営、内容面すべてにわたり教えてくれた二日間であった。地域住民の実態をつぶさに見て歩き、健康づくりの必要性から「生涯スポーツ、健康づくり村宣言」にいたるまでの実践発表。スポーツドクター制度、安全互助会制度を設け、健康と安全に配慮した事業に取り組んで



超満員の全体会場での実践発表



来年度の主管員(埼玉)へ公民館旗引継ぎ



の勤務体制の問題。学校週五日制を試行しての公民館の

在り方など、問題は山積している。当分科会で得た示唆や、他地域の事例を持ち帰って改めて消化し直してみたい。(小国町中央公民館長)

「公民館とは、公民館職員と

は何か」を学ばせてくれた研修会、御苦労された関係者に心から感謝申し上げ、私の印象記としたい。(下越教育事務所 社会教育課副参事)

地球にやさしく、物を大切に

(新潟県貯蓄推進委員会)

利用者が主催する「教室」

新潟市石山地区公民館

こちらは、新潟市石山地区公民館といえます。信越線越後石山駅より徒歩八分、旧亀田街道石山交差点から新潟寄り約百メートルの位置で、車窓からそれと識別できる白亜四階建てのビル内二階・四階がそれです。

新潟市の地積図を平板に切り取って、中心点を求めるように、わが公民館付近になるといわれています。

昭和十八年に新潟市に吸収合併された旧中蒲原郡石山村を、



一曰文学教室(文学友の会)

主たるサービスエリアとしています。

ご承知のように、新潟市には二、〇〇〇平方メートル級の公民館が十カ所ありますが、そのひとつです。

昨年の国勢調査では、旧町村単位で比べた場合、人口の急増のトップは石山になりました。

その五年前までは坂井輪でしたが、石山が二、〇九七人多くなり、八六、八三三人となりました。

新潟市の場合、よほどのことがない限り、市民はこの公民館へ行っても良いことになっていて、エリア人口はどうということも無いのですが、とにかく公民館周辺人口がまだまだ増加しそうな地区に在る公民館、ということになります。

石山地区公民館は、新潟市内の他の九館と比べて、特にユニークな点というのはありません。

したがって、紙面をいただいても恐縮なのですが、編集部の方から「一曰教室などについて」という注文がありましたので、その辺のことを以下にまとめてみました。

話は六年前の昭和六十年六月に「石山地区公民館利用団体協議会」が発足した時点に遡ります。

同会会則の三条には、「相互の連携を深め、地区の社会教育の振興に寄与することを目的とする。」と会の目的を規定しています。

それをうけて、その二年後に公民館側から「一般市民を対象とした事業実施計画の提出について(依頼)」という文書がグループ・サークル代表あてに送られています。

そこには「六十二年度中にあなたのグループが実施する初心者教室、一曰講習会、展示会、発表会等の事業について、計画書を提出するように、ウンスン」とあり、記入は具体的、詳細にそして他の団体、グループと合同でやりたいもの、公民館と共催を希望するものなどについては、その旨明記を、などとなっています。

同年度の実施状況によれば、一曰教室、一曰講習会、大会、研修会二七団体、初心者教室一六団体、作品展示一〇団体でした。その後は「地区活動」と略称



パンフラワー教室(フローラルクラブ)

されて今日に至っています。

私は昨年四月の異動で現職ですが、毎年春に開催する「利用者団体リーダー研修会」の席上地区活動が地域の人の和、文化の振興に寄与するところ大であり、かつ地域市民に利用者団体をアピールするのに絶好のチャンス、と称揚しています。

市の広報紙や新潟日報の夕刊「シティニュース」欄に、一曰教室や展示発表会の日程が、毎週のように掲載されるようになり、市民から「石山は公民館活動が多彩ですネ」などと、おほめの言葉をいただいています。

近年は、各グループが趣向をこらした手作りポスターを掲示したり、チラシを配布するなどPR活動にも熱が入って来てい

ます。

- ・地区の人との親睦の和を広めた。
- ・クラブの存在を知らない人へのPRになった。
- ・ひとに教えることは勉強になるし、グループの強化にもなる。

- ・新会員募集にもつながる。
- ・などの反省の声が公民館に届いているほか、展示発表活動のグループからは、
- ・見られるので研鑽の励みになる。
- ・展示作品を作るために練習にも力が入る。

などの声が寄せられています。きょうも、事務室隣りのガラス張りの展示室で、日本画グループ青樹会の作品発表会が開催中ですが、同じフロアの図書館帰りの市民や、グループ活動を終えて帰宅の前に、と立ち寄る人たちで、お昼時などはごった返すほどの盛況です。

ちなみに、昨年度の報告書によれば、同会の日本画習作展開催期間中(一週間)に、約三五〇人が鑑賞しています。

そして一曰教室・講習会を四九団体、初心者教室を一三団体、展示・発表会については三二団体、合わせて九四団体が平成二年度中に地区活動を実施しています。(館長 笠原勝治記)

サークル交流

「六十の手習いに汗して」 古文書を楽しむ会

堀之内町では、平成七年度刊行を目的として、町史編さん事業に取り組んでいます。

町内から多数の古文書を収集し、毎日調査を行ってきたところですが、町民の中から「またとない仕事をしているのだからその内容を教えてほしい」との声が生まれて、この古文書を楽しむ会が発足することになりました。

四人の講師で月に二回、交代で行っています。内容は、まだ



講師が選んだ古文書によって、受講者の中から希望が出てくればしめたものです。

昔の言葉使いに不慣れのため、解説は四苦八苦の様子ですが、数多く手がけることにより読みなさすことが出来るようになるといわれています。

また時には戸外に出て、石碑等の拓本を取りながら昔を探ってみたいと考えています。

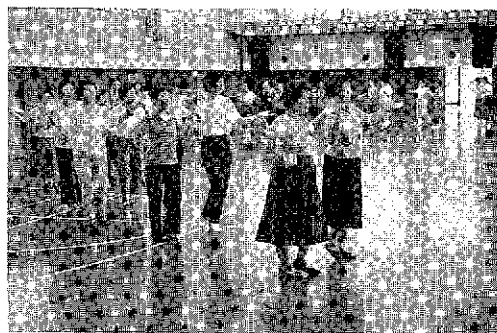
会員は、三十代から七十代までの男女二十名くらいですが、この中から郷土史研究家が誕生することが期待されます。

(堀之内町史編さん室)

長谷川勝義 (記)

レクダンスで生きがいを チョッチャんの輪

私が参加している公民館の「レクリエーションダンス」は、チャチャチャのようにテンポの早いものから、ワルツのようにゆったりしたものまであらゆる曲に合わせて作られた踊りで、誰でも、どこでも楽しく踊れます。会員の中には七十歳を越えた人もいて「乙女のワルツ」「白い恋人たち」の名曲もこなしています。いまや、レクダンスは遠



く北海道から沖繩、そして、韓国まで熱いブームを呼んでいます。私も大勢の愛好者達との交流を大切にしながら、二時間たっぷりといひ汗を流しています。レクダンスは年齢はありま

せん。いつまでも若々しく、そして、より美しく老いたいのには女性の希い。真面目に講師の指導に従いながら踊る皆の表情は真剣です。10分ほどの休憩時間には、ホット汗を拭き、ひとときの雑談に花が咲きます。終わって帰りの自転車にペダルを踏む足も軽く、日々のストレスを体育館の片隅にそっと置いて、それぞれの家路につくのです。素晴らしいレクダンス公民館 (新潟市中央公民館利用者

小黒 君 (記)

白根市鷲巻・根岸地区公民館

主事 大野賢作氏 (32歳)

議会事務局職員として十二年間務めたあと、公民館に異動となり四年目を迎える。

現在、鷲巻と根岸の地区公民館二館を担当し、さらに中央公民館を兼務している。それだけに事務量も多いが、地域カラーを打ち出した事業を企画実施してきている。農村部とニュータ

ウン区域をそのエリアとしているだけに、住民の多様な



そのエリアとしているだけに、住民の多様な

素顔 拝見

村松町公民館 主査

樋口 隆氏 (39歳)

村松の中島常幸と呼ばれるほど、その風ほうと腕前を持つ樋口隆主査は、企画課から公民館へ勤務して2年半である。

ふるさと創生人材育成事業「桜藩塾」や高齢者学級「寿大

学」などの事業、そして公民館の出納長を担当するバイタリティーの持ち主である。ゴルフばかりではなく囲碁三段、硬式テニス、スキーもこなす最近では登山にも癡り出した。

家庭ではご両親・妻君、そして二人の父親として良きパパぶ

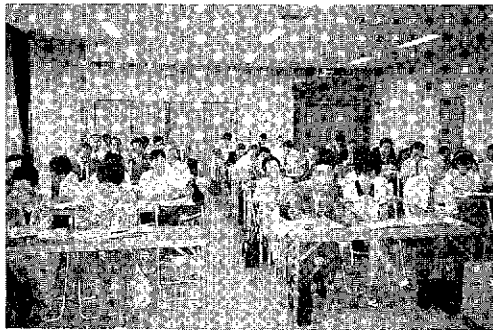


りを發揮 (？)。家庭サービスマままならな公民館の勤務を何なくこなす姿は「スーパーマン」である。

公民館勤務2年余りにして自ら生涯学習時代の手本となるその姿は頼もしい限りである。

今日も「樋口さん、ひぐちさん」と電話や窓口で呼びかわれる樋口主査、正に公民館職員たる姿がそこにある。

(村松町 公民館係長 田辺俊雄記)



発表者新穂村公民館長 渡辺 尚
司会 新潟市中地区公民館



下越地区公連役職員研修

三分科会に一七七名

津川町文化福祉会館で

去る9月10日(火)11日

の二日間(内)にわたり、

津川町文化福祉会館を

会場に、「心ゆたかな人

づくり、地域づくり」

をテーマに平成三年度

下越地区公民館関係役

職員研修会が開催された。

第一日は、開会式のあと、分

科会に分かれて研究討議。

第一分科会「グループの学習活

動と公民館」

第三分科会 地域おこしと公民館

発表 巻町公民館

主査 石田 政広

司会 横越村中央公民館

主査 泉 沢 宏一

助言 下越教育事務所社教課

副参事 桑 原 昭三

第2日は、下越教育事務所社

会教育課長右近次男氏の指導講

評。統いて、記念講演に移り、

「町づくりは、情熱と行動力」

をテーマに会津喜多方酒販売青

年会会長山口和之氏の講演を聴

講。氏の実践をとおしての、地

域づくり人づくりに関する精力

的な活動に一同大きな感銘を受

けた。 (情報提供 新潟市中央公民館 湯田幸栄)

『草創期の公民館を語る会』

長岡市内「会館青善」で

とき 平成3年10月25日(金)

午後12時30分開会

ところ 長岡市「会館青善」

長岡市表町4丁目

(〇二五八―三四―四四―一)

会費 八千円(当日納入)

申込先

長岡市中沢四―二九七―二

草創期の公民館を語る会

事務局 関根敏夫 宛

(〇二五八―三三―〇〇五六)

あとがき

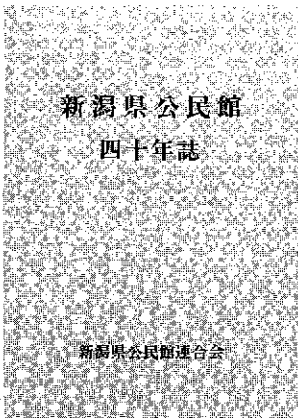
◆関プロ公研集会を無事クリアしたと思ったら、新規事業の公民館長研集が、また、来年度の県大会と企画立案事項が目白押しです。乞ご協力(上村記)

新潟県公民館四十年誌

新潟県公民館連合会刊

二十年ぶりの記念誌

図書紹介



新潟県公民館
四十年誌

新潟県公民館連合会

当県公民館連合会で、発足四十周年を記念して「新潟県公民館四十年誌」を刊行した。これまで十年ごとの節目に記念誌を刊行してきたが、三十年誌は「集い学び結ぶ」と題する実践記録集であったので、本誌はいわば「二十年誌」(昭和47年刊行)のあとを受けて、昭和48年以降の二十年の歩みを記録したものである。

激動の二十年間における県公連の歩み、つ

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下 清一

編集人 事務局長 上村 捨二郎

【定価1部120円 年共1,440円】